『イエ系』

作・松井周

三上　景子（似祖母）
和也（似父）
真希（似母）
頼人（似長男）
弥穂（似長女）
つくし（似次女）

梶原　正一郎（北九州再家族トレーニングセンター・主任）
戸田くらら（北九州再家族トレーニングセンター・チューター）
大木　奈々（母）

杏（あん）（長女）

玲司（れいじ）（ボディガード）

田中（たなか）　徹（とおる）（市役所職員）

【解説】

この作品は北九州芸術劇場のご依頼により、福岡県北九州市の近未来の姿を想像して書いたものです。そのために取材やリサーチを行いました。基本的にはフィクションですが、地名や店名やお祭りなどの固有名詞の中には北九州市に実在しているものも混ざっています。また、作中に出てくる「再家族制度」は完全なフィクションです。もしも実在の街にそのような制度が生まれたら、人々はどんな「家族」を営もうとするのか？というシミュレーションをしてみました。

①訓練【1】

ブザーが鳴る。
パラパラと人が現れて、ラーメン屋のカウンターが出来上がる。
北九州市役所が町おこしのために行なっている「再家族制度」のトレーニング施設。仮設のラーメン屋のカウンター。
カウンターのみの店。厨房に和也（茹で担当）と真希（具材担当）と弥穂（スープ担当）がいる。つくしはレジ付近に突っ立っている。カウンターで景子がクロスワードパズルを解いている。客が一人カウンターのイスに座っているが、立ち上がり、つくしにお金を払う。

客　　ごちそうさまでした。
和也　ありがとうございました！

三上家の皆、「ありがとうございました！」の声を回して（リレーして）いく。

景子　（クロスワードの問題をランダムに解きながら）〇〇の〇〇ってなんだ？

全員で答えを考える。わからなかったら次に行く。

二問解いたら市役所職員の田中徹、下手から登場。

和也　いらっしゃいませ～！

和也の声を皮切りに店員全員で「いらっしゃいませ～！」を回していく。
つくしのみ、恥ずかしがって声が小さかったり、思い切りが足りない。
それを感じてか、和也が二周目の「いらっしゃいませ～！」を回していく。

「いらっしゃいませ～！」の声が今までの逆でリレーされていく。
やはりつくしのみ、声が小さい。つくし、水の入ったコップを田中の前に置く。

和也　何にしましょう？
田中　（メニューを見ながら）えーと…〇〇麺（ランダムで〇〇）。
和也　〇〇麺一丁入りました！やわこい入ります（など）
真希　ハイヨ
和也　麺入ります
みんな　お願いします

「ハイヨ」も店員で回していく。

田中　トイレ、いいですか？
景子　あ、こっち（と上手を指す）。
田中　すいません。
和也　トイレ入ります
みんな　ハイヨ
景子　ごゆっくり。

田中、上手に去る。

和也　つくし、声小せえぞ。
つくし　え？
和也　挨拶。
つくし　（遮るように）わかってる。
和也　やる気ないみたいだろ？
つくし　やる気はないよ。
和也　は？
弥穂　あるよ！見えないだけ。
真希　フロアーが嫌なんだよね。早く厨房入りたいって。
和也　十年早いわ。

つくし　違うよ。そういうことじゃない。
景子　（トイレにいる人に）聞こえちゃうよ。それより、〇〇の（クロスワードの問いを言う）
和也　（かちんと来て）何が違うんだよ。
景子　和也、いいって。
つくし　違うよ。お姉ちゃんがさ
弥穂　（つくしの言わんとしていることに気づいたのか）つくし。今、仕事中。
つくし　じゃいいよ、もう。
和也　何だよ。
つくし　お父さんがお風呂でおしっこするの困るって、ずっと言いたくて、だからお姉ちゃんに相談してたのに、全然言ってくれないから。
和也　え？なんだそれ。
弥穂　タイミングあるでしょ？
つくし　違う。だからやる気ないとかじゃなくて、お父さんには逆らえないって雰囲気感じてなんかそれがちょっとやだ。
真希　和也さん、お風呂でおしっこしてるの？
和也　してない、してない。
つくし　頼人兄ちゃんが言ってた。「それが最高」って言ってたって。
和也　そんなことは言ってない。飲みすぎたときの応急措置。
真希　してるじゃん。

弥穂　ちょっと、いいよ、今は！お客さん、いるんだし。
景子　（クロスワードに集中していて）〇〇が〇〇。わかる？
和也　…シャワーで流してる、しっかり。
弥穂　スープ入ります
みんな　ハイヨ
つくし　それにトイレで立ってするのもやめて欲しいんだけど。
和也　それは男なんだからしょうがないよ。湯ぎります
つくし　飛び散ってる。それに、そんな人いないよ、今。
和也　いるよ。
弥穂　いいって。ね？お父さんのお楽しみなんだから。
和也　いや、別にお楽しみじゃ
つくし　何言ってんの？
弥穂　多様性だよ。
つくし　汚いじゃん、だって。
真希　もういい！今話すことじゃない！集中して、〇〇麺に。
つくし　普通しないよ、だって。
和也　基本男は立ってするよ、トイレ。
つくし　しないよ。
和也　する！じゃあ、お客さんに聞いてみようか？トイレから帰ってきたら。
つくし　そうしようよ。

真希　やめて！

弥穂　（頭を横にふる）

田中、上手から登場。
皆、無言である。

和也　（出来上がった〇〇麺を出して）おまちどうさま…

田中　（〇〇麺を受け取りながら周りを見て）…なんだろう？（この空気は）

田中、割り箸を割って食べ始める。
皆、じっとしている。
つくし、水を入れにいく。

田中　トイレに花が飾ってあって、きれいでした。

つくし　…ありがとうございます。

頼人、岡持ちを持って下手から登場。

頼人　（小さい声で）ただいま。（田中に小さく）いらっしゃいませー。

真希　おかえりー。

和也　おう。道わかった？

頼人　（うなづく）

景子　ライちゃんさ、「〇〇は〇〇」（クロスワードの問題）、わかる？

頼人　〇〇？（わかってもわかんなくてもいい）。

ブザーが鳴る。

全員、芝居をやめる。

②フィードバック

客席奥から梶原、登場。

梶原　お疲れ様〜！

全員口々に「お疲れ様」と言い合う。

梶原　まー…こんなもんかな！悪くない、うん。はい、ちょっと集まろう。

梶原以外の者たち、舞台前に集まる。

梶原　そうね、いいんじゃないですか？今日の課題は「家族間のちょっとした言えない秘密について話す」でした。どうですか？和也さん。
和也　いや、ちょっと（恥ずかしかったです。）
梶原　いい反応でした。
和也　でも自分ではやらないし。
梶原　あ、おしっこ。
和也　はい。
梶原　本当に？
和也　はい。
梶原　あんな気持ちいいのに？
和也　あー…じゃもっとじゃーじゃーやっちゃってる感じでも良かったんですかね？
梶原　いえ、あんな感じでいいです。
景子　私、もっと参加したかったなあ。
梶原　いえ、分をわきまえてるってのも重要で。
景子　つまんないもん。
梶原　つまんない、うん、つまんなくていい。はい、それが日常。ね、ラーメン屋の店員が面白かったらどうですか？真希さん。
真希　うざい？…かな。
梶原　うざいね、確かに。「美味しい」に「面白い」はいらない。
和也　挨拶、しつこくないですかね？

梶原　全然。プレートあるでしょう？ちょっと持ってきてもらっていい？（田中に）これなんて書いてある？

田中、下手前にかかっている「一生懸命営業中」のプレートを持ってくる。

梶原　ね？「一生懸命」。味も大事なんだけど、これ、アピールできてなきゃ馴染めないよ？街に。商店街に、路地裏に。あなたたちは「普通」の家族じゃない。家族になりたいけどなれない人、なりたくもない人、結婚も出産も関係ないって人、そんな人たちが集まって家族カッコ仮ってのをやろうってんだから、そりゃ大変よ。それが「普通」に馴染むには大変な努力が必要なの。「一生懸命」。声枯れたっていいんだ、むしろ枯らしちまえ！そのほうが一生懸命が伝わるって。ね？いいですか？あなた方は北九州市のちょうど二十軒目の「再家族店舗」になります。様々な過去を精算して、厳しい審査を通過してここまで来ました。ね？血が繋がっていなくても、もうあなた達は「家族」としての権利と義務が与えられます。自覚を持ってお願いしますね。

三上家のメンバー、揃えたように「はい！」と言う。

田中　（拍手して）や、や、でも本当に今日はいい感じでしたよ。家族だなあって感じがとてもあって。（つくしに）声小さいのも「あーそういう人いるなあ」って感じで。

真希　弥穂の耳栓はありですか？

梶原　耳栓？
真希　この子、耳栓してるんです。うるさい音が嫌いで。
弥穂　すいません…声がうるさくて。どうしても。
頼人　僕もうるさいのは。
和也　今更。
弥穂　でも最近どんどん大きくなってる気がして。
和也　（大きな声で）気合入ってるからね！気合が！
真希　大声ってわかりやすいしね。
弥穂　囁いても素敵かなって。
和也　（聞こえないぐらいに囁いて）いらっしゃいませ…
弥穂　（ちょっと小さいかもと思い）ああ…
和也　お通夜、お通夜…帰っちゃうよ！こんなの。
景子　でも新しいよ、それ。
和也　お母さんは黙っててよ。

戸田、下手から登場。何かを伝えようとしているが流れを読み、一旦その場に立つ。

梶原　つくしさんはどうですか？
つくし　…何でもいいです。

梶原　うん、そう何でもいい。個性ですから。耳栓も囁きも一つのやり方。良いでしょう。それぞれの「再家族」の味に、特徴になります。今日はここまでということで。あと一週間、店舗の方も順調にできてますので、引き続きよろしくお願いします。お疲れ様でした！

皆、口々に「お疲れ様」と言う。
田中、メモを持って和也に近づく。
戸田、梶原に伝言をする。
戸田、梶原、去る。

田中　（スマホの録音機能をいじりながら）ちょっとすいません。
和也　徹ちゃん。仕事してるね。
田中　仕事しかしてないです。
和也　ウソだよ。どうせ今日も角打ち巡りするんでしょう？
田中　します、はい。北九州市の発展のために。
和也　それは同じよ、こっちも（握手を求めて）。
田中　（握手に応えて）はい。市の広報誌用のインタビューお願いします。
和也　また〜？
田中　評判よくって。
和也　素人だよ、おれ。お手柔らかにね。

田中　いよいよ「快麺☆カッセイ！」開店の一週間前ですが、今のお気持ちは？
和也　気持ちねえ…まあ感謝しかないですよ。再家族としてね、再家族制度を通じて集まった仲間たちとお店持たせてもらって、ありがたいね。ホントそれだけ。
田中　「家族」の実感は？
和也　（田中の肩に手を置き）徹ちゃんさ、ぶっちゃけるとね、もう「この野郎」「バッキャロー」の連続よ。
田中　六ヶ月で家族になるってのもね。
和也　実質は三ヶ月よ。でもね、ぶつかり合って、あーじゃない、こーじゃないってやり合ってるうちにこう、（頼人に）あ、〇〇も片しといて！
頼人　はい。
和也　（笑いながら）声小さくてさ。頼むな～！…（田中に）なんだっけ？

和也、他のメンバーにも指示を飛ばす。内輪の馴れ合い感を出しながら。

田中　家族の実感を…
和也　（じっと田中を見て）徹ちゃんも見てきたからわかるでしょう？
田中　なんとなくは…
和也　月並みだけどさ、あったけーなって。それだけ。

③引き金

戸田、梶原、登場。

梶原　ちょっと集合お願いします。今日からね、ちょっとカフェ部門のメンバーで入ってきた方たちをご紹介します。どうぞ！

玲司がまず登場し、辺りを確認して、合図をする。
サングラスをした大木奈々と娘の杏、そしてボディガードの玲司、登場。

奈々　そんな、そんな、ごめんなさいね、お時間取らせちゃ申し訳ない。あの、はい、大木奈々です。それと娘の

杏　杏です。

玲司　玲司です。父です。

奈々　はーい。よろしくお願いします。

皆、それぞれに「よろしくお願いします」と言う。
和也、杏と奈々を凝視した後、目を逸らし、片付けを始める。

梶原　（和也を指して）こちらがラーメン屋「快麺☆カッセイ！」の店長兼父親の三上和也さんです。奥さんの真希さん、お義母さんの景子さん、長男の頼人さん、長女の弥穂さん、次女のつくしさんです。

皆、口々に「よろしくお願いします」

奈々　はい、ちょっと、徐々に覚えますので。よろしくお願いします。
頼人　（和也に）あ、もう終わりましたけど。
和也　（声小さく）いやいや、最終チェックね。
梶原　今ね、大木さんたちは三人で占い喫茶をね。
真希　へー、すごい。
弥穂　わー。
奈々　もうね、インチキです、インチキ。
杏　そういうこと言わないで。
奈々　適当に言ったら、大体当たるんです、あれ。
杏　（イラッとして）ちゃんと勉強してます、通信講座で。

田中、スマホで大木家の三人を撮る。
杏、田中を口頭で止める

杏　お兄さん何してるんですか、盗撮ですか、変態ですか。
田中　え？…
梶原　あ！ごめんなさいね。きちんと伝えてませんでした。この人はあの…北九州市の広報の方でね。
玲司　お嬢様。
杏　（手を解いて）ごめんなさい。
田中　いえ…勝手に撮ってすいませんでした。
杏　消して下さい。
田中　はい、これで。（と消す　玲司が消したことを確認して合図）
杏　（笑って）ありがとうございます！盗撮はダメだぞ。
田中　あ、はあ…
杏　（奈々に）この人？（と和也を指す）写真の人！
奈々　（杏に余計なことをするなと言うように）いいから！行くよ。
梶原　あ、そうですね。先月から広報誌にも載ってますもんね。
梶原　（慌てて奈々たちに）じゃあ、よろしくお願いしますということで、皆さんの方は先に寮の方に戻ってもらってくださって、大丈夫です。
みんな　お疲れ様でした
杏　（呼び止める形で）和也さんと写真撮りたくて。
田中　撮りますよ。
杏　（冷たく）結構です。

田中　あ、はい。
戸田　…じゃあ向こうのロビーで待ってます。

と、和也以外の三上家、出ていく

和也の横に奈々と杏が立ち、笑ってピースサインする。
和也の顔はこわばる。

杏　（和也に）わかりますか？誰だか。
和也　多分…
杏　えー！嬉しい。やっと会えたよ、お父さん。ね？お母さん。
奈々　うん。まさかこんなとこでね。
杏　祝・私達を捨てて二十周年。
玲司　笑ってー！

真顔の杏と奈々と引きつった笑い顔の和也のポーズ。
奈々と杏と玲司、去る。和也、一人残される。

④ご招待

三上家のリビング。
ダイニングテーブルとイス。ソファーもある。
三上家、和也を除く全員がパーティーの準備をしている。
オードブルなどを並べたり。グラスや食器を並べたり。
景子、何かオブジェのようなものの位置を決めかねてる。

真希　（景子に）いいんじゃないですか？そこで。
景子　どうだろう？こっちに置くのとじゃ全然違うからね。
真希　どっちもいいです、うん。
景子　どっちでもいいんだろう？
真希　言ってないです。お義母さんはもう～（困ったなあ）。
頼人　（焼酎の瓶を持って）これ、開ける？この前、もらったやつだけど。
真希　いいねえ！頼人はわかってるよね～。あれ？お父さんは？
頼人　いや、見てない。さっき具合が悪いとか言ってたけど。
真希　何それ？

ピンポンが鳴る。

真希　あ、来たね。（頼人に）お父さん引っ張ってきて！

真希、頼人、去る。
花束を持った奈々、杏、玲司、真希、登場。

真希　どうぞ、どうぞ。
奈々　どうも、どうも。これ（と花束を真希に渡す）。
真希　ありがとうございます！わー！いい匂い！
杏　これ（何かお土産のお菓子）、皆さんで。
真希　わ～！美味しそう！すいません。

皆、軽く挨拶などをする。
頼人、和也、登場。

和也　（奈々たちと目を合わせないようにして）ようこそ。

三上家のメンバーで酒を注いでいく。
つくしにはソフトドリンク。

真希　はーい、揃いました。じゃあ、お父さん、乾杯の音頭、お願い。
和也　え？
真希　お願いしま～す！（と拍手）

和也　（高い声で）えーと…
弥穂　お父さん、リラックス。
和也　こういうのはホント、慣れてないから…

杏、和也を睨んでいる。

和也　（杏の視線に気づき）…その、ま、お互い仲良くやっていけたらいいんじゃないでしょうか。かんぱ――
杏　（和也をさえぎって）再家族ってどんな感じですか？
和也　（動揺しながら）どんなって…どんな？…うーん、新鮮ですかね。
杏　普通の家族と何が違いますか？
和也　…
奈々　杏！乾杯するんだから。
杏　あ、ごめんなさい。
和也　いえいえ、ま、とにかくウェルカムってことで！乾杯！

皆、口々に「乾杯」と口にする。
その後、一旦、沈黙の時間が訪れ、和也は隅でポリポリとつまみを食べている。
しばし、雑談をした後。

奈々　（じゃあ、）皆さんはトレーニングの後も、こうやってみなさん一緒にいるんですね？
真希　そう、だね。
景子　一応家族だもん。
真希　というか、これもトレーニングの一環でして。
奈々　え？
弥穂　食後にちょっと集まって、テレビ見たりとか？
真希　うん、若干、気、使いながらね。
杏　めんどくさくないですか？
真希　あー…どうだろう？
杏　わざとらしいっていうか。
奈々　杏。
つくし　面倒くさい。
杏　あ、やっぱり。
弥穂　でもそれが家族だから。面倒くさいのが。
つくし　部屋にいると呼び出されて。半ば強制的に。
弥穂　言えばいいじゃん、そう思ってるなら。
つくし　言えないよ。
弥穂　なんで？
つくし　そういう感じで来るから。

景子　（そのやり取りを見て、杏に）こういうのも、まあ家族っぽいでしょ？
杏　ええまあ…真希さんでしたっけ？
真希　はい、真希です。
杏　真希さんはなんでここに？

皆、バツが悪くなる。

弥穂　あ…
つくし　ダメかも。そういうの聞くの。
真希　ダメってことはないけど、あんまり聞かないかな。
杏　すいません。
真希　いえ。
景子　叩けばホコリが出る。
弥穂　違う、違う。プライベートなんで。
景子　いいじゃない、そんなの。
真希　まあねえ…
景子　私の場合、亭主が死んで、あ、このままじゃ孤独死するかもって思っただけ。
弥穂　おばあちゃん、素敵。
景子　だからいいって、そんな気使わなくて。疲れるだろ？
弥穂　全然。

真希　私は主婦をしてたんですけど、いわゆる推しにハマって、追っかけをして全国回ってました。カリスママッサージ師で各地でツボを押して回ってるんです。神の指なんて言われてて。で、ある時家に帰ったら、いつの間にか夫も子供もいなくなってたっていう、ダメダメなことしてましたね（恥ずかしそうに笑って）…そんな感じの、はい…ひとりぼっちになって、じゃあ。って。

杏　ありがとうございます。普通に再婚とかは考えなかったんですか？あ、普通にっていうか、普通はないけど。

真希　ないです。あの、推しにハマる前は夫の暴力に困ってて。

杏　ああ。

真希　夫はツッコミって言ってました。俺がツッコミを入れないとお前は面白くないからって。毎日、なんでやねん、なんでやねんってここ（ほっぺ）をバシーンって。夫は関西の人でもなかったのに。次第に子供も真似するようになって。

杏　再家族は家族とは違う？

真希　んー…ツッコミはないしね。

杏　和也さんと真希さんは愛し合ってるんですか。

真希　うーん、愛っていろんな形があると思うんだけど、

杏　で、愛し合ってるんですか。

真希　うーん、どうだろう（和也の方を向く）

奈々　和也さんはどうしてここに？

和也　え。

真希　奈々さんが、和也さん、どうしてここに来たのかって。
和也　え？それは…（簡単には言えない）
真希　確か工場で働いてたんだよね？
奈々　へえ。
真希　このへんのはずですよ、八幡のあたり？
和也　ストップ、ストップ。
真希　あ、ごめんなさい。
和也　勝手なこと言うなって。そこは人一倍気を使わないと。
弥穂　それはそう。
和也　こういうこと言っていいですかってさあ！（語尾にかけてちょっと怒る）。
弥穂　（注意を促すように）お父さん。
真希　ごめんなさい。インタビューとかでも答えてる範囲だからと思って。
和也　言い訳はいらない。
奈々　（強く）いや、私が聞いたからで。ごめんなさい。
和也　いえいえ、こいつが。
奈々　（強く）真希さんです。こいつではない。
真希　全然、全然！（奈々に）大丈夫です。
頼人　（小さく）トランプでもやりますか？

間。

景子　うん、やろうか。

頼人、トランプを持ってくる。

和也、席を立つ。

つくし　どこ行くの？

和也　一眠りする。

弥穂　お父さん、おもてなし中。（と和也を戻して）

奈々　ごめんなさい。でも聞いてほしくて。私のこと、ちょっとだけ。

弥穂　聞こ、聞こ！

頼人　（小さく）ババ抜き？七並べ？

つくし　（頼人を見て首をかしげる）

奈々　（和也に）聞いてください。自己紹介と思って。

真希　…聞きたいです！

景子　どうぞどうぞ！

奈々　本当に、こんな、こんな（身振りで）ちっちゃい店だったんですけど。母親がやってた頃はここからここまでぎっしりお客さんだらけでね。

真希　すごーい！この辺、鉄鋼で賑わってたって聞きますからね。

奈々　そうそう。スーベニールっていう名前のスナック。工場の男たちが毎日通い詰めるようなさ。男たちがタバコふかしながら、ビール飲んで、カラオケで日々のウップンを吐き出してっていう。景気が良かったの。こんな（小さい）頃からカウンターの横で宿題やってたから。父親は私知らないんだけどね、その人たちがみんなパパみたいなもんで。うちの母親目当てだったんだろうけど、すっごく優しくしてくれたんだよね。母親もそういうの手玉に取るのうまくてさ。着物着て文学の話なんかするからこう、簡単に手出せない感じで。でもさ、母親が死んで、店継いだ９０年ぐらいからどんどん景気悪くなって工場も縮小しちゃって、どんどん人がいなくなってって。あれよあれよと静かになってね。

景子　全然変わっちゃったもんね。

真希　そうなんですね。

杏　お母さんはある男と大恋愛したんです。

奈々　また！すぐそういう話するから。

杏　ラブラブだったんだよね。

奈々　うるさい。

杏　ちょっとやってみます？再現してみよう？トレーニングの一環ということで。和也さん、ちょっといいですか？

和也　え？いや、俺は…

皆、口々に「頑張って」などと声をかける。

奈々　工場の契約社員で来てたのが…（和也に）彼です。
和也　え？
奈々　座ってるだけでいいんで。
和也　うん…
奈々　何も喋らないんだけどね。はじめはちょっとビールを飲んで文庫本読んでたりして。下請け工場の寮に住んでるって。昔、おじいちゃんがこのへんの工場で風船爆弾を作ってたとかそんな話するようになって。この街の負の部分っていうの？あと、音楽をやってたのかな？昔、お客さんが置いてったギターがあるから弾いてもらったりして。

杏、ギターを棚から持ってきて、和也に渡す。
和也、「禁じられた遊び」のような曲を弾く。

奈々　しみったれた感じ。昔は嫌いだったんだけどね。「ごちそうさん」って手あげて帰っていく姿も洒落てて。付き合うようになったんだけど、こっちの出勤前に喫茶店でコーヒー飲んだりして。黙って雑誌読みながら。で、しばらくそんな感じで過ごしてて子供できたから「結婚しよっか？」って聞いたら
和也　…（何も言い出せない）
奈々　ねえ、ねえ…って言っても返事はなくて
和也　（ジェスチャーで間違ってると指摘する）

杏　（いないはずの人物なのに入っていき）お父さん、何で逃げたの？
和也　だれ、あなたは。（何だかよくわからないというサインを出す。）
杏　ツケは回ってくるから。
奈々　終わりでーす。

間。

頼人　…（空気を変えるように）トランプでもやりますか。
真希　でもここ、せまいから。
景子　レクリエイションルーム、行く？
弥穂　片付けは……。
真希　このままでいいよ。（レクリエイションルームに）ご案内しまーす。

和也以外のみんなは、そこから離れ別室に移動する。

⑤取引き

玲司、再びやってきて、

和也　なんですか、それ。

玲司　タバコ。
和也　ここ、禁煙だけど。
玲司　液体です。
和也　だから、
玲司　爪の間から吸うタイプの。最新の。
和也　え？そんなのあんの？
玲司　失礼します。（取り出した液体に指を浸し、空中で振る）…ん～…は～…
和也　そこまでして吸いたいですかね？
玲司　人間の欲望ってのは厄介ですね、ホント。
和也　目的はなんですか？
玲司　目的？
和也　今、本当に大事な時期なんで。僕だけの問題じゃなく、皆で、北九州市も背負って、持続可能な店舗経営をやらなきゃならないんです。これはもう絶対に。
玲司　「血が繋がっていなくても、家族にはなれるんです」って。読みました、立派なインタビュー。
和也　いや…
玲司　血が繋がってたから捨てたんですかね？
和也　違う
玲司　一千万で。
和也　ちょっと！

玲司　二十年間、放っておいたわけですよね？少ないくらいだわ。
和也　…今となってはあんまり覚えてないんだけど、うまく行きっこないって思ったんだよね。相手に求めるものが全然違ったっていうか。
玲司　杏のことは考えなかったんですか？
和也　種だけちょうだいって言われたのね、最初…だから、それで…考えないほうがいいって思った。情がわいたらややこしくなるって。
玲司　へえ。こっちが聞いてる話とは違いますね。あんた、クズだね。
和也　だから本当に訳わかんなくて。それに、杏と奈々が親子なら再家族化は無理でしょう？
玲司　…特別養子縁組で奈々さんとは親子の縁が切れてる。ここにも話は通ってます。別の親がいます、杏には。何故そうなったかは想像してみてください。もちろん、あなたのことはまだここには話してません。
和也　…すいません。
玲司　一千万。それでもう無関係にするから。
和也　んー…でも…
玲司　隠し子騒動が起こったら、これまでのことがご破産ってことに！

玲司、和也をハグするようにして持ち上げていく。

和也　え？え？
玲司　タカイタカーイ！

弥穂、登場。

弥穂　何？

玲司　いや、タカイタカイが好きだって言うから。嬉しくて。

弥穂　タカイタカイ？

和也　そう。タカイタカイ好きなんてあんまりいなかったから、うん！

玲司　（和也を降ろして）さ、戻りましょう。皆にも知らせないと。タカイタカイ好きだってこと。

玲司、和也、去り、リビングに合流する。

⑥色

弥穂、リビングの様子を見ながら吐き気を催し、うずくまる。

弥穂、つくしがリビングから出ていくさまを見る。

弥穂　（止めるように）ちょっと！どこ行くの？

つくし　外。

弥穂　なんで？

つくし　コンビニ。

弥穂　ダメだよ、そんなの。お客さんがいるのに。

つくし　お姉ちゃんだって。

弥穂　私はすぐ戻るよ。だから、ね。（行っちゃダメ）

つくし　自由でしょ。多様性。

つくし、去る。

弥穂　（吐きそうになってうずくまり、ポケットから人形を出し、話しかける）君は大丈夫？…良かった。私は大丈夫。ここは少し空気がいいから。なんでだろう？またあれが起きちゃった。人の息が煙に見えるやつ。しかも色付き。色付きの煙。お母さんの息は黄色で、おばあちゃんは濃い紫。奈々さんは真っ赤だった。血の色みたいに。私は深緑。話してる人も、誰かの呼吸も、小刻みな笑い声も全部、他の人の息と混じり合って曇ったようなグレーになってって…あの部屋からあふれてくる（人形に）よく見て。君（人形）と人間とは違う生き物なんだよ。（と人形をなでる）…よし！もう大丈夫。励ましてくれてありがとう。よーし！どんどん吸っていこう！…誰の息も分け隔てなく…（また吐き気に襲われる）…分け隔てなく…（また吐き気に襲われる）

弥穂、去る。

⑦占いカフェ

戸田、登場。

戸田　（手叩きながら）じゃ、お願いしまーす！

奈々、杏、玲司が登場し、その場をカフェにしていく。

戸田　仕込みと片付けで決まるからね。清潔感、オシャレ感、親近感、大事。

スナックか狭いカフェのような場所になる。

戸田　梶原さん、お願いします。

梶原、客として入ってくる。

奈々　いらっしゃいませ〜。

戸田　語尾は？伸ばさないほうが、うん。

奈々　いらっしゃいませ！

杏　いらっしゃいませ。

玲司　いらっしゃいませ！
戸田　掛け声一人で良くない？カフェの場合、うん。
奈々　あ、はい。どうぞそちらへ。
梶原　はい。

真希、客として入ってくる。

奈々　いらっしゃいませ！
真希　へへ、来ちゃいました。
奈々　あー！どうも。
梶原　（手を上げて杏に）すいません。ブレンド。
杏　はい。占いつけますか？
梶原　はい。
真希　私も同じので。
杏　はい。占いつきで。
真希　はい。
杏　（玲司に）ブレンド二つ。占いつき。
玲司　ありがとうございます！

玲司、コーヒーを入れ、奈々はコーヒーのドリップ状態を使って占いをする。コーヒーを口に含んで、紙に噴射する？
杏、コーヒーと紙の両方を二人に持っていく。
奈々、梶原の近くに行き、

奈々　前世は犬。中世オランダのレンズ職人の飼っていた犬。いたずら好きで人懐こい。長生き、一途、寂しがり屋があなたにリレーされています。
梶原　（コーヒーカップを凝視しながら）待って、待って…やばいやばい！…全部当たってる…犬なんだよ、犬。俺は犬。かまってほしくて、舌出して待ってんの。耳曲げて近寄ってくるタンバリンって犬を飼ってて、そいつは本当にただただ、構ってほしくてよってくるんだよ。ただただ、俺を頼りに。一目散に脇目も振らずにさ。俺も同じ。
奈々　真希さん、どうぞ。
真希　いえ、結構です。
梶原　なんで？すごいのに。
真希　いえ、本当に。
奈々　ま、そんな大したもんじゃないんで。
梶原　いえ、ちょっと震えました。ほら、犬ってなんか、言葉にすると「企業の犬」とか「犬畜生」とかすごくネガティブなイメージが強いんだけど、でも純粋って捉えてもいいんだよね。こう、気持ちが、好きって気持ちがアイドリングしてるの、舌出しながら、ハーハーー！って！

戸田　はい！お疲れ様です！

奈々、杏、玲司、シミュレーションをやめる。
梶原、拍手する。
田中、登場。

梶原　ブラボー！このままもう営業できますね。
奈々　占い、いりますかね？
梶原　いりますね。ルーツが知れたし。
杏　犬でしたけど。
梶原　はい、素敵な気づきでした。
奈々　大げさですよ。
梶原　ウ～…ワン！ワン！
奈々　ハハ、もういいです…
杏　本当にもう営業できるんですか？
梶原　そのつもりです。
田中　あ。（と手を上げる）
梶原　何？

田中　ちょっと僕の調べたところによると、そういう「変わり種カフェ」みたいなものは長続きしないのかなと思ってます。梶原さんも重々承知の上でのご感想ということかもしれませんが。

戸田　それは私もはい。占いが邪魔する？こともあるかなって。素敵なカフェを。

梶原　いやいや、たまにはそういう、

田中　（被せて）そういうのは民間に任せておいて、逆に行政は「面白くない」けど「ちょっと美味しい」を目指すのがいいのかな？

梶原　別に占いは面白じゃないでしょう。

奈々　や、面白ですね、多分、はい。

梶原　んー…はい。

杏　（田中に）占い嫌いなんですか？

田中　いえ、むしろ好きです、個人的には。ただ行政としてはって話で。

杏　（土下座して）お願いします。

田中　ちょっとちょっと！やめてください！

杏　これしかないんです。私たちもう、お姫様と占い師とボディガードっていう、亡命してひっそりと日々の糧を得て暮らしてるっていうコンセプトが出来上がってるんで、それを変えたくないんです。

田中　あ、そういうのなんですか？

杏　はい、そういうのなんです。

田中　わ、わかりました。基本、僕には権限ないんで。思ったことを言ったまでで。

杏　え？そうなの？
田中　はい。
杏　（立ち上がり）ふざけんなよ！（と服の埃を払う）この一連のアクション、普通金もらってるんだけど。
田中　すいません。
杏　いいよ、もう行って！パパ、ママ、夜景見にいくよ。

杏、奈々、玲司、どこかに向かって進んで去る。

田中　いやいや、これまでにいないタイプですね。
梶原　すいませんね。
田中　大木家の皆さんをリスペクトした上で言うんですけどね、これは「案件」になりますね。
梶原　ま、でも個性ですよね。
田中　イグザクトリー！その通りなんですけどね、逆張りで言うと、個性なんてクソ喰らえ精神と言いますか、つべらこべらおっしゃらずに枠にはまった親子のユニット組んで、記号に徹していただくのもありなのかなと。梶原さん、麻雀ってなさいますか？
梶原　たまに。

田中　麻雀と再家族って似てると思うんですよ。麻雀は牌を揃えてユニットを組んで上がる。それと同じように最適で相性のいいメンバーとルールで決められたユニットを組んで上がっていただきたい。それこそが未来を創るんだから。

真希　良くわかんないんですけど、それって悪口ですか？

田中　全く違いますね。建設的でクソ前向きな意見ですね。

戸田　クソを入れないほうがいい？

梶原　これも個性よ。

田中　（梶原に）寛大だなあ。

田中、去る。

⑧相談

真希　ちょっといいですか？

戸田　はい。梶原さんも？

真希　いえ、二人で。（梶原に）すいません。

梶原　大丈夫でしたか？ちょっと冷静になった。さっき、どう見えました？僕は。

真希　え？

梶原　さっき占いの時。見苦しかったですか？

真希　いえ、そんなことは。

戸田　はい、かなり。
梶原　はしゃぎ過ぎました。

梶原、去る。
残された戸田と真希、向き合ってイスに座る。

戸田　（梶原を見て）ちょっとみなさん、お疲れのようですね。ここにいると少しずつ気持ちが悪くなるんです。ここは自分も周りもあやふやな存在だから、誰かに自分を決めて欲しくなるんです。
真希　わかる気もする。
戸田　それで？どうしました？
真希　その、和也さんのことなんですけどね、夜私の部屋に来ようとするんですよ。
戸田　えー、それは…
真希　ナシですよね？
戸田　はい。
真希　けん玉やりたい、けん玉やりたいって、酔っ払って。意味わかんないけどなんか怖くて。
戸田　けん玉、それは隠語？
真希　さあ。でもダメですよね。そういう親しみはナシのはずだから。
戸田　はい。

真希　それにすごく威張るんです。
戸田　普段？
真希　はい。特にシミュレーション中に。
戸田　取材受けたりして天狗になってんのかな？
真希　ちょっと思い通りに行かないとイライラして。もう怒鳴るような感じで。
戸田　家父長制シンドロームですね。
真希　はい？
戸田　男性が「俺が家族の中心でトップなんだから、俺を敬わないやつには鉄拳食らわす」という態度に出る症状です。モデルにする家族像が古いとそういう形になりやすいです。もちろん異議申し立てはできます。ただし、これがうまく行くという場合もあるんです。
真希　そうなんですか？
戸田　はい。みんな慣れてるというか、慣らされてきたというか。一種のノスタルジーです。
真希　私はちょっとつらいです。
戸田　わかりました。伝えてみます、和也さんに。
真希　私の名前は伏せてもらって。
戸田　はい。こちら、緊急ですか？
真希　いえ、徐々にというか。和也さん、普段はいい人でもあるんで。ただ、ちょっと頼人に対する態度もちょっと強くって、それも気になって。

戸田　わかりました。

つくし、登場。

真希　つくし。
戸田　おす。
つくし　おす。終わった？
戸田　うん。後は大丈夫…ですかね？
真希　はい。（つくしに）また行くの？
つくし　うん。
真希　飽きないね。
つくし　飽きない。飽きるとこない、門司港は。
戸田　確かに。
真希　こっちのほうが姉妹みたい。
戸田　施設の先輩と後輩って結構そういう感じあるかも。
真希　ああ、そうだよね。
戸田　私が十六の時に八歳で入って来たんだっけ？
つくし　うん。
真希　弥穂より全然長いね。
つくし　いつもはビジネス姉妹だから。

真希　ちょっと。そういうこと絶対弥穂の前じゃ言わないで。
つくし　お母さんが言ったんじゃん。
戸田　つくしはたくましいです。ちゃんと妹キャラを獲得してるし。

杏、登場。

戸田　おかえりなさい。あれ、お母さんたちは？
杏　散歩してくるって。皿倉山（さらくらやま）に行きました。つくしさん。
つくし　は？
杏　本当にやってけるって思ってます、再家族？
つくし　何？いきなり。
杏　それだけ聞いておきたくて。
つくし　はい、別にそんな。
杏　私は正直、窮屈だなって思った。
つくし　それはそうだけど。
杏　かわいそうって思った。
つくし　は？
杏　もう一度言うね。かわいそう。
戸田　それはちょっと傲慢？うん。

杏　いいじゃん、傲慢。あなたの無関心よりずっといい。つくしさんは埋まらないものをニセモノで埋めようとしているに過ぎない。

つくし　ちょっと。

杏　飼いならされて楽しい？

戸田　誤解してますね。

真希　本当にそう。

杏　本当の家族をつくればいいのに。

戸田　再家族ってすごい希望なんです、児童養護施設出身の私たちにとっては。本当の家族にうんざりしてるんで。

つくし　それも違う。ただエスカレーター式にここのメンバーに入っただけだし。

戸田　つくし。あんたは恵まれてるんだから。

つくし　嫌だとは言ってないじゃん。

杏　意思のない人間。今のあなたをざっくりまとめた。

戸田　杏さん、ピッピー！それ以上はダメ～。アウト！

杏　これは私が自分の問題と向き合った上での問いだから。

つくし　（戸田に）行こ、なんか気持ち悪い、こいつ（杏）。

杏　血の繋がりが大事ってことです。

戸田　すいません…今、なんて？

杏　血の繋がりこそが全てなんです。そこに価値があるとかないとかじゃなくて、逃れられないってことです。

戸田　いいえ、ここでは違います。できるだけ安全にそういうものから切り離して事業を進めようって話になってます。

杏　でもそんなのうまく行かない。血の繋がりのどうしようもなさにくっついてる引力みたいなものには敵わない。だからそこに向き合っていこうか！

戸田　そういう見方ははっきり言って古いです。

杏　いいえ。それは綺麗事です。

戸田　はい。いいです、綺麗事で。泥沼にはまらないためのものなんで。

つくし　できれば出てって欲しい。ここにいる意味ないし。

杏　あなたもないんじゃない？ウソつくの、やめない？

つくし　…

杏　友達になって。こうやって人が目の前に立って、じっと見つめ合って、涙が止まらないって経験したことある？…（つくしの手を取って）バケツひっくり返したぐらいの愛情を常に注いであげたい。

つくし　マジでやばいわ。行こ？

杏　今、私を強く意識したよね。一歩前進した。

玲司、走って入ってくる。

つくし　怖いよ。

つくし、去る。追いかけるように戸田、去る。

玲司　お嬢様、そろそろ薬の時間です。（錠剤を出す）

杏　（錠剤を飲んで）つくしちゃん、かわいい。

玲司　今日はそれぐらいにして寝てください。

杏　沸騰してるから無理。つくしちゃんのイラストを描いて送ってあげようかな。

玲司　そうやってまた全部の関係をかき回すんですか？

杏　誤解しないでね。私は火を分けてあげてるだけ。色んな欲望に火をつけたい。それをコントロールできないとしたら私のせいじゃない。（玲司、後ろに回って）後ろに立たないでって！（玲司戻ろうとするが杏とぶつかりそうになって）邪魔！

杏、去る。

真希　え？え？何？今の。大丈夫ですか？杏さん。

玲司　はい、いつものことで。

真希　ああ…大変ですね、そちらも。色々。

玲司　いえいえ、そちらのほうが。

真希　うちは全然。杏さんは…その、独特でいらっしゃるから。

玲司　あれ？聞いてませんか？和也さんから。

真希　へ？

玲司　杏はね、和也さんの娘です。
真希　ん？
玲司　実の娘です。独特ですよね。和也さんに似て。奈々さんも含めてあの三人は実の家族です。
真希　え？…だってそれは、
玲司　（ポケットから誓約書を出して真希に見せる）和也さんね、誓約書書いてくれました。これまでの償いをしたいって。
真希　…

玲司、占いカフェの片付けをする。

⑨こたつ

三上家のリビング。晩酌の時間。
和也、景子、田中、こたつに入ってる。
景子、クロスワードをやっている。

景子　〇〇の〇〇は何？
和也　〇〇？
景子　うーん…
田中　〇〇

景子　ああ…
和也　あー、しかしなー。いよいよだなあ。（と何かを田中のグラスに注ごうとして）
田中　あ、でもそろそろお暇しようかと…
和也　まだいいじゃない。
田中　はい、じゃあ…（受けながら）すいません。…緊張してます？
和也　ずっとしてるよ。受け入れてもらえるのかなーって。
田中　大丈夫ですよ。雰囲気いいし。
景子　〇〇でよく使うものは？

誰かが答える。

和也　祇園太鼓の音を聞くとさ、いきなり昔に戻ったみたいな気分になってね。
田中　あれ難しいんですよね！
和也　難しいし、癖になるのよ。ずっと頭の中で鳴り続けちゃって。
田中　あれ、音符にならないリズムらしいです。
和也　ああ、かもね。
景子　じゃんがら。
田中　そうそう。これね（手をすり合わせてじゃんがらの真似をする）。小学校の頃稽古しましたよ。

和也　親父のリストラでここ離れてからも、ふら～っと戻ってきちゃうのよ。あの太鼓の音に誘われてさ…徹ちゃん。

田中　はい。

和也　徹ちゃんはなんでこんな良くしてくれるの？

田中　その立場上、特にひいきにしてるわけじゃなく、ま、してるか？前も話したと思うんですけど。うちがラーメン屋だったっていうのもデカいです。

和也　あ、そっか。

田中　じいちゃんの頃は井筒屋への出前がひっきりなしで、もう殆ど寝ないで仕込みしてたって聞いて。ラーメンってやっぱりいいなって。で、そのラーメンと福祉と経済が一緒になる企画があれば飛びつくのは当然といいますか。

和也　しっかりしてるな。

田中　というか、恐怖です。少子高齢化が止まりません。子供を増やす以外のやり方を探さないとヤバいんです。だから本当、和也さんたちは希望なんです。

和也　そうね…やんないと（浮かない顔）

景子　大丈夫よ！祇園太鼓にやられてる人を絶対排除しないもん、ここは。

和也　どうかな。もうあの頃とは違うからねえ。

田中　またやればいいんですよ。

弥穂、頼人、登場。

弥穂　お父さん、ちょっといい？
和也　ん？
景子　（何か瓶を掲げて）飲む？
田中　お邪魔してます。
頼人　あ。
弥穂　（心ここにあらずで）どうも。
田中　（察するように）もうお暇（いとま）しようと思ってたところで。
弥穂　思ったならすぐそうしてください！
田中　あ、はい。（とこたつから出る）
和也　（弥穂に）おい！
景子　ごめんなさいね。でも家族ってこういうとこあるから。
田中　いえいえ…色々あるかもしれませんが、とてもいい調子だと思います。初日には市長も来るみたいなんで、楽しく堂々とかましちゃって下さい！はい、じゃまた！

田中、去る。

和也　そんな言い方ないだろう。
弥穂　お父さん。
和也　ん？

弥穂　杏さんってお父さんの娘なの？
景子　え？
和也　え？…誰が言ってた？
弥穂　お母さん。
頼人　どうなの？
和也　…たぶん、そう。
頼人　たぶんって。
和也　確認してないから。
弥穂　何しにきたのかな。
和也　だから……占いのカフェだろ。
弥穂　お母さん、考え直したいって。
和也　何を？
弥穂　快麺☆カッセイ！。
和也　それが理由で？
弥穂　わかんないけど。
和也　…俺も本当にびっくりしてる。でも俺の気持ちは変わんないから。
弥穂　気持ちって？
和也　店をやりたいってこと。
弥穂　でも奈々さんと杏さんの気持ちはどうなるの？
和也　それ考えたらやってけないよ。

弥穂　お母さんはそれ考えたんじゃない？
和也　…
頼人　お父さんはやる気あるんだよね？確認しておきたい。
和也　なかったらここにいないって。それはそれ、これはこれよ。
景子　時間経てば真希さんも落ち着くって。慌てない、慌てない。もう寝る。大したことないって。
弥穂　そうかな。
景子　そうだよ。おやすみ。

景子、去る。

弥穂　お母さん、ちょっともう無理じゃないかって。
和也　そんな…
弥穂　…さっきはそう言ってた。
和也　そういうわけには行かないから。ちょっと探してくる。
弥穂　無理矢理はダメだよ。
和也　もちろん。
弥穂　お母さん、いつもと違う。声が低くて、目が怖かった。
和也　わかった。俺もちゃんと謝るから。

和也、去る。

弥穂　無理だと思う。お父さん、全然わかってない。
頼人　うん。
弥穂　どうしよう。
頼人　ね。
弥穂　どうしよう。
頼人　ハハハ！（大きく笑い出す）
弥穂　え？
頼人　（急にやめて）あ、ごめん。
弥穂　どういうこと？
頼人　だって…弥穂はさ、本当はみんなのこと、嫌いじゃん。
弥穂　嫌いじゃないよ。どうしてそんな事言うの？
頼人　ごめん。そう見えたから。
弥穂　…私は、そんなことない。人間を受け入れられたときは皆を好き。三回に一回の確率だけど。
頼人　え？難しい。
弥穂　甘んじて好きってこと。
頼人　んー…ならいいけど。
弥穂　お兄ちゃんでしょう？嫌いなのは。

頼人　そんなことない。俺はただ拾ってくれた父さんについてくだけだから。何も無理してない。お前、無理してるだろ？

弥穂　無理？

頼人　誰かがご飯を食べる音も、ゲップもにおいもおならも大声も本当は嫌でたまらないのに、笑ってやり過ごして、トイレで吐いてるの知ってるから。

弥穂　もう慣れたよ。

頼人　って思い込もうとしてる。

弥穂　って思い込まそうとしてる。私は二人が好きだから仲直りして欲しい。

⑩欲望

真希、登場。

真希　ちょっと何？

弥穂　あ、お母さん。

真希　和也さんが部屋の前にいるんだけど。

弥穂　あ、うん。

真希　怖い、怖い。

弥穂　話がしたいみたい。

真希　無理無理。

弥穂　あのさあ…
真希　ちょっとごめん！今は何も話したくない。弥穂がアレとかじゃなくて。
弥穂　わかった。お父さんにはとりあえず出かけたみたいって言ってくるよ。
真希　お願い！

弥穂、去る。

真希　大丈夫かな、ここにいて。
頼人　じゃあ、ここに隠れてなよ。

頼人、こたつの下に真希を誘導する。
真希、こたつの下に入り、そっと顔だけ出す。

真希　ありがとね。
頼人　うん。
真希　優しいね、頼人は。
頼人　お父さんもすぐにおさまるよ。
真希　いい、いい。ちょっともう無理。
頼人　そんな…謝って済むことじゃないけど、謝罪とか補償で進めることでどうにかなると思うんだけど。快麺☆カッセイ！とは別にさ。

真希　そうじゃないよ。
頼人　何？
真希　和也さんは弱いから。肉親に甘えちゃうと思う。そういう血の繋がりを結局はありがたがる人なんだよ。
頼人　そうかな？
真希　そう。私にもね、本当の家族になるのはどう？って、夜部屋に来たことがあってね。そういう欲望を抑えられない。
頼人　そっか…
真希　どうしよう…怖いよー。
頼人　うん。
真希　手、握っててもいい？

真希、テーブルの下から頼人の手を握る。

真希　頼人は本当に優しいね。お母さん、それは本当に嬉しい。だからさ、頼人も一緒に大木さんのとこの占いカフェやってみない？
頼人　え？
真希　人手欲しいみたいで。
頼人　こっち辞めるってこと？
真希　うん。もうしょうがない。

頼人　だって他のみんなは？
真希　…お母さん一人で抜ければいいの？…ま、そっか…
頼人　そうは言わないけど。
真希　うん、わかった。
頼人　いやいや。

真希、頼人の手をつねる。

頼人　イテ！
真希　…私のこと、ちゃんと見てくれてると思ったのに。
頼人　いや
真希　私がどれだけ頼人のこと見てるか、わかってる？
頼人　わかってるよ。
真希　私だけが我慢して、それで収まればいいんだね。
頼人　そうは言ってないよ。
真希　悔しい！
頼人　何とかするから。
真希　何とかって？
頼人　お父さんに話してみる。
真希　やめて、それは。また見てないところで圧かけられる。

頼人　ちゃんとそういうこともしないように距離取ってもらってさ。
真希　うーん…
頼人　大丈夫だから。
真希　頼人は優しいね。すっごく優しい。
頼人　とりあえず…何！？（手を引っ込めて確認する）

真希、頼人の手を舐めた？
真希の手だけがこたつの中から伸びてくる。

真希　（頼人の手をつかまえて）もっと甘えていいんだからね、頼人も。私に。ずっと味方なんだから、お母さんは。
頼人　もう行く。

真希、頼人の手を離さない。

真希　頼人！思いやりを持って！こういう時、どうするの？とっても人が困ってるときに、見捨てる人？それとも慰める人？どっち？
頼人　（手を伸ばし）だ、大丈夫だから…

和也、登場。

頼人、和也に気づき、無理やり手を離す。

頼人　…（離した自分の手が空を切る）
和也　逃げられた（和也は真希に気づいていない）。
頼人　うん。
和也　（頼人の手がぎこちないのを見て）どうした？
頼人　…いや…（見られた手を振りながら）ちょっと練習しようと思って…
和也　何の？
頼人　え…湯切りの。
和也　（シャドーボクシングで頼人の頬を殴るようにして）ふざけんな！
頼人　え？
和也　もう二代目気取りか。
頼人　いや、
和也　…その真面目さがいいんだよ（と抱きしめる）。いずれは継いで欲しい。ポンコツな親父だけどさ、支えてくれないかな。
頼人　もちろんそれはいいんだけど、母さんにも伝えてよ、それ。
和也　いや、無理だよ。あいつとはさ、距離があって、ここに。仕事してるときはいいんだけど、オフの時がやりづらくてさ。父親はやらせてくれるんだけど、夫はやらせてくれない。全然夫婦じゃない。なーんか…お前はやりにくくない？あいつと。
頼人　…やりにくくない。

和也　年はお前が十歳上だよな。
頼人　うん。
和也　それであんなベタベタして。まともじゃ（ねえ）
頼人　（遮るように）いらっしゃいませ！…声が出た…
和也　え？ああ。ダメだぞ。嫌なときは嫌って言わないと。
頼人　（思わず）子供でいればうまく行くから。
和也　うん。あんまり根詰めるなよ。
頼人　はい。大丈夫？
和也　うん、大丈夫だよ。

和也、去る。
真希、無言でこたつの下から現れる。

真希　ずるいよ、頼人は。

真希、去る。

頼人　（苦笑）これ、なんてトレーニング？俺…もう分かんねえよ。

⑪会議

空っぽのトレーニング施設。
三上家、全員集合。梶原、戸田、田中もいる。
皆、バラバラになって座っている。

梶原　他にもう意見はないですか？…繰り返します。和也さんの過去の行為や現在のハラスメント行為に対する不信感から、和也さんに父親の役割を降りてもらいたいという意見が出ました。大木家と和也さんの関係については、こちらとしては問題ではありません。だから後はもう本当に三上家の問題です…

弥穂　奈々さんたちは何か言ってますか？

梶原　いいえ、特に何も。こちらから働きかけようとも思いません。あちらが和也さんを訴えたりしたら、それはそれで和也さんが対応することになります…はい、じゃあもういいですか？和也さんが父の座を降りるってことで。

景子　あ、これで店を辞めるってことじゃないんだよね？

梶原　はい。ただ、そのことはもちろん絡んでくるとは思いますが。まずは父の役割ということです。「和也さんが父の座を降りる。」賛成の方、挙手を。

真希と景子、弥穂が手を上げる。
頼人は悩んでいるが、手を上げない。

田中　…（思わず）でももったいない気もするなあ。
真希　いいです、そういうの。今は。
田中　あ、すいません。
和也　ありがとね。
田中　いや、ホント誰にとっても。
弥穂　逆もあるから。今やめれば傷は深くならないで済むっていう。
つくし　もう深い。
景子　店はやるってことでいい？
真希　それも私は…（やめてもいい）
弥穂　快麺☆カッセイ！はやりたいし、お父さんだって、
真希　もうお父さんじゃないかも。
田中　いや…はい。
真希　（和也を指して）この人は権力が欲しいんだと思う。「父親」風のなんか、そういう下駄みたいの履きたいだけ。そういう「家族」が欲しいだけなんだって。
和也　それは決めつけだよ。
戸田　あの、いいですか？
和也　印象だけで話してる。

戸田　あの、とにかくですね。もし店舗の営業ができなくなったら、契約上はこれまでの諸経費２５００万円を払っていただくことになるけど大丈夫ですか？基本的には折半なんで、一人頭４１７万ほどになります。

真希　折半なんですか？

戸田　はい。

真希　あの人の問題が大きいと思うんですけど。

和也　それでも俺はやりたいと思ってるよ、今でも。

真希　それは甘いよ。

田中　真希さんはどうしたいんですか？

真希　まあ占いカフェには興味あります。

田中　あれは偽物ですよ。ちょっと付き合えばわかる。

梶原　占いは本物です。

真希　こっちが偽物でしょ？

田中　こっちのほうがまだまともですって。

梶原　占いはまともです。

戸田　梶原さん。

田中　というか、あれじゃ小倉でやってくのは難しいと思うな。

つくし　一月持たないね。

梶原　もう一度聞きますね。和也さんが父の座を降りる。ラーメン屋を続ける。あるいは全てを辞めて借金を払う。どっちでしょう？「父の座を降ろす。ラーメン屋存続」

三上家では、真希以外、こちらに手を上げる。

梶原　「全部やめて借金払う」

真希、迷いながら手を上げる。

梶原　では父の座を降ろして、ラーメン屋は続けるということで決定します。

戸田　現実的な選択だと思います（拍手する）。

田中、景子、頼人、弥穂、つくし、パラパラと拍手する。

和也　…なんにもできないくせに。

田中　和也さん、気持ちはわかるけど。

和也　いや、わかんねえよ、こんな屈辱は。

真希　私は降ります。カフェをやりたいんで。

頼人　でもじゃあ、再家族になれないんじゃ…

景子　大丈夫だよ。両親が離婚して、祖母の家に住む兄弟たちってことで。ねえ？（戸田に）

戸田　それはありですけど、和也さんが何になるか、なんですけど。

弥穂　うーん…

つくし　お兄ちゃん？頼人兄ちゃんよりも上の。
梶原　それだと変わらないんじゃない、父親と。
田中　家父長制。長男が家を継ぐあれね。
頼人　ペットは？
弥穂　え？
頼人　ペットになってもらうのは？
和也　え？
戸田　ペットって…あのペット？
頼人　はい。
和也　いや…
戸田　いい！
梶原　うん。それは羨ましい。
弥穂　ああ！
つくし　今なら。
和也　ちょっと待って！家族じゃないよ！
戸田　家族です、今は。立派な。
田中　（メモして）あー。むしろそっちだな。

和也、ふてくされて去る。
皆、片付けて去る。

⑫血

占いカフェ。
和也、カウンターに突っ伏す。

和也　ってことになってさ。今までのこと、本当に申し訳ありませんでした。

カウンターにはいつの間にか、奈々と玲司と杏のみがいる。
玲司はコーヒーを挽いている。奈々は占いの勉強。杏は衣装を縫っている。
幻聴のようなムード歌謡が流れている。

奈々　よく顔出せるね。
玲司　ま、良かったんじゃないですか？分裂はせず。
和也　まだわかんないよ。
玲司　お金は払ってもらいますけどね。養育費として。
和也　これだから家族っていうのは…
玲司　楽しめばいいんですよ、ペットを。
奈々　その人（玲司）はこの子（杏）の地下アイドル時代のマネージャー。
杏　ちょっと違う。地下アイドルになれるよって言って、CD作らせる詐欺の人ね。

玲司　売れたら詐欺じゃないから。
杏　誰も売れなかった。
玲司　今までは、ね。
和也　やめよう、この話。
奈々　ねえ、思ってること言っていい？
和也　やめといてもらおうかな。吐いちゃう、きっと。
奈々　わかった。もう始まるんだけど、カフェのトレーニング。
杏　門限ないの？ペットには。
和也　知るか。
杏　探されてるんじゃない？
和也　（ちょっと笑って）探されてもいないし、ほっとかれてもいない。リスペクトされてます。北九州のモデルケースだからね。ペットは家族だし、虐待があってはならないってね。
奈々　私は望んでない、こんなの。
和也　どんなの？
奈々　傷ついて反省したそぶり見せてるだけ。
和也　ちょっと待って。結構な仕打ちだよ。それに俺は君が思ってる過去とは若干違った記憶を持っているけど、それも呑み込んでる。
奈々　じゃあ反省もしてないってこと？
和也　そうじゃないよ。

杏　ちょっと。子供の前でしていい会話？それ。
和也　ごめん。
奈々　出てってもらえる？

和也、出ていこうとする。

奈々　本当に出ていくんだ。こうやって話もできなかったんだよ。逃げられたらさあ！追いかけられないんだよ、こっちは。子供がいたら。どうせうまく逃げたと思ってたんでしょう？甘いよ。まだ終わってない。二十年分の恨みはそんな簡単にあれできないから。
杏　こわ！
奈々　ね。（コーヒーを飲んで）あ、美味しい。
玲司　あ、そう。
奈々　でも時々にするから。疲れるもん、ずっと怒ってたら。身体から離してここ置いとくから。勝手に持って帰って後悔に悶え苦しんでね。
和也　こっちも時々にさせてもらうけどね。
杏　血が繋がってるってどういうこと？
玲司　え？
杏　二人が揃うなんてこと初めてだから、それってなんか特別な何かなの？
玲司　子供にとってはそうじゃないの？

杏　だからそれって何か感じるわけ？「あー家族だな、確かに」っていう…テレパシーみたいな何かをさ。

和也　（頭を横に振る。「感じない」）

奈々　私は感じる、強烈に。杏を仲介してなんか来る。

和也　（苦笑する）気のせいじゃない？

奈々　かもしれないけど、ある。デジャブとも違う。橋渡しの感じ。

杏　へー。

梶原、走って登場。

梶原　ビラ貼ってあった（ビラを奈々に見せる）。

奈々　あらあら…「実の家族が再家族制度を悪用か」だって。

梶原　大したことじゃないんだけど、邪魔かなって。こういう情報って草の根で、スル～っと入ってくるからさ。

和也　帰るわ。

梶原　すぐこういうこと言ってくる奴いるんだよな。

奈々　実際、そうだし。

梶原　そうだけど、これは例外としてアリにしてるわけだから。

和也　（杏に）こっち来たら？快麺☆カッセイ！に。

奈々　やめてよ。

杏　お父さん、いるじゃん。
和也　ペットだから俺。
梶原　これからの移動はまずいっすね。目立つんで。だからもうトレーニング・センターの方に入ってもらうとかですね。
杏　なんで私たちが責められるわけ？
梶原　こちらで対処します。
杏　いつもマウント取られるんだけど。いつも何かが足りてないみたいに思い込まされてる。
梶原　まあまあ。
杏　疑問なんだけど、再家族の中で子どもができたらどうなんの？
梶原　当事者は即脱退です。
杏　へーそうなんだ。
梶原　この制度は家族の振りしてもいいですよって制度なんで。単身者のための、安全で最小のコミューンですから。
杏　何目的？
梶原　そうですね。バラバラな年代の人達が集うことで、お互い無関心でいられなくなる。他人よりもちょっと近い距離の人たちのケアをする。
杏　面倒。家族なんて。知らないけど。
梶原　面倒が大事なんです。面倒でイライラしながらも手を貸すって感じじゃないと。
杏　ストレスじゃん。

梶原　その非合理なところが大事なんで。きついこと言っちゃったなあ、お土産買って帰ろうかなとか、今度は優しくしようとか、失敗しても次の機会が用意されてるわけで。
杏　あー、そういうの無理。
梶原　わかります。
杏　まだ独りでいいや。
梶原　僕もそっちです。再家族はちょっと無理。
杏　ママの犬になりたいくせに。
奈々　杏。
梶原　それは…否定はしない。
玲司　こっちに（和也に）先を越されたってこと？
梶原　間違えないで欲しいです。僕はペットじゃなくて、犬のように生きたいってこと。
玲司　違いがわからん。
梶原　全然違いますよ！
和也　いつでも代わります。
杏　なんだ、こいつら！違うんだよ。帰れよ！私は私が好きな人と、私を好きだって思ってくれた人と子供が欲しいってそれだけ。
梶原　でも色んな事情の人がいるからね。
杏　わかってる。でもじゃあどうやってもこの二人から生まれてきたことを私は肯定できない！
奈々　…うん…

和也　うまく言えないけど…ありがとう。生まれてきて（くれて）

杏　（遮って）簡単に回収してんじゃねえよ、過去をさ。都合よく！

和也　ごめん。

杏　早い！謝るのも！パパ！

玲司　おう。

和也　何？

杏　違う！こっち（玲司）！踊りに行くよ。今日黒崎でハロウィンナイトやってるから。

玲司　はい、お嬢様。

杏、玲司、去る。

梶原　ワオーン！

奈々　ちょっとやめて

⑬甘い絶望

暗いトレーニングセンターの中、杏、玲司、登場。

物陰で誰かが動く。

杏、電気をつけると、隅の方に田中が佇んでいる。

杏　え？パパ、電気。

玲司、電気をつける。

杏　田中さん？
田中　こんばんは。
杏　何してるんですか。
田中　写真をちょっとね。
杏　やっぱり。
田中　…ええ。（カメラを持ったまま隠そうともしない）
杏　ビラの写真見て、もしかしたらって…これ、外の人は撮れないよなって。
田中　不公平はなくしたいんで。
杏　開き直ってる…汗かいた。パパ、タオル。
玲司　はい、お嬢様。（とタオルを渡す）
田中　いえ、告発です。再家族にふさわしくない親子が入ってるという。
杏　え、認めてもらってるけど。
田中　それは梶原さんの独断ですので。
杏　ここって色んな人達がいますよね、私たちだけじゃなく。クリーニング屋さんにお寿司屋さんに、アンティークショップか。他の人のも撮ってるんじゃない？
田中　…監視が必要な部分はあります。

杏　出るとこ、出ましょうよ。

玲司、懸垂などを始めて、田中を威嚇する。

田中　（動揺しつつ）商店街の裏の方、どんどん駐車場になってるの知ってます？歯が抜けたみたいに、ボコボコって。それを食い止めないと大変なことになります。だからこの事業は失敗できない。あなたみたいのが一番厄介なんです。全てが駄目になる。

杏　ご立派です。写真を見てから判断するね。ただ私は再家族なんて付け焼き刃だと思ってる。

玲司　（田中に）あんまり正義漢ぶらないほうがいいんじゃない？

田中　（笑って）付け焼き刃ね。ある意味正しい。この街に寿命が来たんです。わかりませんかね？これは終活なんです。徐々に死んていくための最後の幻想です。

杏　こわ。それはあなたの幻想です。（手を差し出し）人も街もそんなにやわじゃないから。

田中　え？

杏　失礼します。

田中　それは…

杏　ごきげんよう。

杏、玲司、去る。田中、追いかけるが玲司に睨まれて、引き下がり、去る。

⑭最後のトレーニング

梶原　（転換中に）最後のトレーニングになりますので、気を引き締めていきましょう。今日は大木家の皆さんもいらっしゃるので。

カウンターのみの店。厨房に頼人（茹で担当）と弥穂（具材担当）とつくし（スープ担当）がいる。つくしはレジ付近に突っ立っている。カウンターで景子がクロスワードパズルを解いている。和也は椅子に座ってギターを下げている。

景子　（クロスワードの問題をランダムに解きながら）〇〇の〇〇ってなんだ？

全員で答えを考える。わからなかったら次に行く。

二問解いたら市役所職員の田中徹、下手から登場。

頼人　（小さく）いらっしゃいませ～！

頼人の声を皮切りに店員全員で「いらっしゃいませ～！」を回していく。

つくしの声は相対的に大きい。

それを感じてか、頼人が二周目の「（小さく）いらっしゃいませ〜！」を回していく。
やはり、つくしの声が大きい。
つくし、水の入ったコップを田中の前に置く。

頼人　（小さく）何にしましょう？
田中　（聞こえず）え？
弥穂　何にしましょう？
田中　（メニューを見ながら）えーと…〇〇麺（ランダムで〇〇）。
弥穂　〇〇麺一丁入りました！
頼人　（小さく）ありがとうございます。

「ありがとうございます！」も店員で回していく。
杏、奈々、玲司、真希、登場。

和也　（杏に）いらっしゃいませ、いらっしゃいませ、快麺☆カッセイ！のマスコット、かわいいペットの和也だよ。さあさあ…リクエストどうぞ…さあさあ…
つくし　（皆に水を持っていきながら）お父さ…あ、和也、邪魔。
和也　おっとごめんなさいね…人様にご迷惑はおかけしたくないからね。

つくし、杏と奈々と玲司と真希の前に水を置いていく。

真希　ありがとう。もう少し右。あと量が一定じゃない。残念。

つくし　ごめん…あ、失礼しました。

田中　（気を使って）やります！（と手を上げる）

和也　ありがとうございます、リクエスト一曲千円です。

田中　あ…（迷った末）やっぱいいです！

頼人　（小さく）何にしましょう？…（聞こえなかったのかと思い少し大きく）何にしましょう？

真希　全然ダメ。きこえない。全然。ま、でもやってみなさい。自分たちでやるって決めたんだから。お母さん、追い出して。

つくし　追い出して…はいない…

頼人　（奈々たちに）ご注文は？

杏　…

杏、水を飲む。

弥穂、苦しくなって舞台の外へ。

弥穂　（吐きそうになってうずくまり、ポケットから人形を出し、話しかける）君は大丈夫？…良かった。私は大丈夫。……でもない。ストップ！君と違ってホモ・サピエンス・サ

ピエンスの私は、ホモ・サピエンス・サピエンスの間にいると、皆から感情とか意識みたいな百個くらいのテニスボールが打ち出されて、跳ね返ってバシバシ当たって痛い。いたたまれないから、時間を、時間を早送りさせてしまおう…そして、あれから十年が経ちました。ハイ！おばあちゃんは亡くなって幽霊となってお店の周りを徘徊しています。そしてまた一年後、お父さんは厨房が暑くなってくるとおしっこをしてしまうので、

和也　ああ…ああ…

弥穂　お兄ちゃんと私は「違うよ」と言ってお父さんを連れて、お風呂場に直行させるのでした。つくしが代わりにラーメンをつくってくれます。今日も笑顔が絶えません。そしてまた一年後、カウンターの横にできたカフェスペースでは、ＡＩに職を奪われた人たちのための転職占いが今日も大人気。うちのラーメンセットは占いとコーヒー付きで、そのギャップが受けています。そしてまた一年後、気候変動で商店街は地下に潜って、この街もだいぶ変わってしまったけど、お客さんへの掛け声だけは今でも同じです。

田中　ごちそうさまでした。

和也　あ、あ、あ、ありがとうございました！またお越しくださいませ。

ブザーが鳴る。

梶原、登場。

梶原　弥穂さん、勝手に時間を進めない。

弥穂　はい。
梶原　他の人もそれに乗っていかない。

皆、バラバラに返事する。

和也　だから俺、おしっこはしないから。
弥穂　ごめん。でもしてもいいってことだよ。
梶原　飲食店だから。
景子　殺さないでよ。
弥穂　ごめん。周りから見守ってるってこと。
奈々　ラーメンと一緒にはやらないと思う。
弥穂　もしもってことで。
頼人　いや、こっちも。
弥穂　そうも言ってられないよ。
つくし　…（グッドのサインをして）なんか、良かった。
弥穂　ありがとう！
梶原　じゃあ、もう一度行きますよ。いよいよ明日が本番なんでね。
つくし　本番って言葉、いらないかも。
梶原　どうして？
つくし　地続きのほうがいい。

頼人　つくしはそれでいいよ。

会話に紛れて、杏、奈々に耳打ちし、去る。

梶原　はい、そろそろ準備お願いします。

皆、「はい」などと答えながらプリセットを始める。
戸田、登場。

梶原　ちょっとやり直してて。
戸田　はい。
梶原　あれ？杏さんは？
戸田　出ていきました。またいつかって。
梶原　え？
和也　え？
戸田　みなさんによろしくって。
奈々　挨拶しようと思ってたんだけど、皆練習してるからいいって言って。
玲司　捨てられました。
梶原　だって三人のユニットなんでしょう？
玲司　飽きたって。

梶原　あらら。まあ、それも個性よ。
つくし　その言葉もいらないかも。
梶原　あ、そう。難しいな。失礼しました。始めますよ。じゃ、一度戻ってください。

皆、ちょっと打ち合わせなどしながら去っていく。
ブザーが鳴る。
暗転。

終わり。